

## 「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>2023年度 (選抜区分：総合選抜型入試) 外国語学部 英米学科 (科目名：英語)</p>
<p>出題の意図 (評価のポイント)</p>	<p><b>【1次試験】</b> 1次試験は、模擬的に大学の授業を受講してもらい、授業についていくことができるか、その上で、授業で学んだことを正確に理解し、それについて自分の意見を表現できるかを問う試験である。</p> <p>問題1.</p> <p><b>【出題の背景・出典】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業で用いられたテキストは、<i>UC Berkeley Social Science Matrix</i>に掲載された <b>Robin T. Lakoff</b> によるエッセイ“<b>What's up with upspeak?</b>”を一部変更して抜粋したものである。高校生にとっての難語や理解困難な言い回しも散見されるが、これらについては、模擬授業の中で講師が解説するので、それを手助けに英文を英語で読解していくことの醍醐味を味わってほしい。英米学科に入学後は、こうした形態の授業が中心となっていくからである。</li> </ul> <p><b>【求める能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題1では、模擬授業で用いたテキストの要約が求められる。ただし、設問の中に記されているように、テキストに記されている重要点を網羅しているだけでは不十分であり、講師が講義の中で解き明かした内容や、自身の見解として述べたものについても言及したものでなければならない。テキストの読解力、講師の英語の講義を聞きとり理解する聴解力、そしてそれらをもとに主題を把握し、まとめていく表現力の3つの能力を同時にはかる問題である。</li> </ul> <p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストの要約は良くできているが講師のコメントを一切記していない答案や、逆に講師の講義の内容は良くまとめられているがテキストの内容がじゅうぶんにまとめられていない答案では、大幅な減点がなされる可能性がある。両方を踏まえて要約を行なってもらいたい。</li> </ul> <p>問題2.</p> <p><b>【出題の背景・出典】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題1においてテキストおよび講義の内容の理解度を見た。この問題</li> </ul>

2は、テキスト及び講義で問いかけられたポイントについて、受験生の見解を問うものである。

**【求める能力】**

- ・問題文に対し、自分の意見を、説得力を持って展開できる英語による表現力がはかれる。ただし、問題に記されているように、テキストと講義それぞれに示された情報や意見などに言及したうえで文章を作成していなければならない。

**【解説】**

- ・テキストや講義内容と無関係に自分の考えを記すことも可能なトピックではあるが、ここは問題文に記しているように、テキストと講義を踏まえた見解の提示が求められる。自分の意見が客観的に論理的に述べられ、読む人を説得できる内容になっているかが評価のポイントとなる。
- ・英語による小論文であるので、語法面も当然チェックする。ただし、あまりにも些末な間違いによって大きく減点をするという姿勢ではなく、文章が読者に説得的に迫ってくるかということが、より重要ポイントとなっている。

**【解答のためのアドバイス】**

- (1)問題文の要求に即した文章を作成すること。その点に集中し、周辺的な問題に惑わされたり、中心から離れたりしないようにすること。
- (2)論理的に構成すること。自分の立場を明確にし、そのための根拠や例をきちんと示すこと。課題文から引用したいときは、そのままではなく要約して言い換えると語数を節約することができる。
- (3)決められた語数を超えないこと。しかし必要な語数の目安として示されているものなので、決められた語数内でできるだけ多くの語を用いて文章を作成することをお勧めする。
- (4)文法の間違いは少ないほうが好ましい。また語句を適切に選択することは重要である。

**【2次試験】** 2次試験は、実際に面接官と質疑応答形式のディスカッションを行ない、コミュニケーション能力を問う試験である。

**【出題の背景・出典】**

- ・初めに、1次試験の模擬授業について振り返り、必要に応じて質疑応答を行なう。
- ・標準的なレベルの英語による会話を行なう。

**【求める能力】**

・英語を用いて実際にコミュニケーションを行なう能力を問う。聞き取れないときでも、問い直しをするなど、途切れなく会話を行なうことができ、自らも積極的に意見を述べることができるか、など、総合的なコミュニケーション能力を有する人材を求めている。